

マコガレイ (地方名：ホンマコ、アオメ)



生態

- 分布・移動：北海道以南の日本各地の沿岸、朝鮮半島沿岸、黄海などに分布します。主に水深100m以浅に分し、産卵期には水深50m以浅に移動します。
- 成熟・産卵：満2歳でオスの90%、メスの70%が成熟し、満3歳ではそれぞれ100%、80%が成熟します。産卵期は11~2月で、盛期は12~1月です。
- 食性：多毛類やウミウシ類が主体です。

マコガレイの成長 (年齢起算日は1月1日)

年齢	オス		メス	
	全長 (cm)	体重 (g)	全長 (cm)	体重 (g)
1	18.0	69.3	17.3	69.5
2	22.2	131.3	24.4	185.9
3	25.8	207.4	30.4	349.2
4	28.8	292.0	35.4	543.9
5	31.5	380.6	39.7	755.2
6	33.7	469.2	43.3	970.8

沿岸域漁業管理適性化方式開発調査最終報告 (1987)

漁獲の動向

発生量が多かった平成16年級の漁獲加入により平成18年に478トンとなりました。その後徐々に減少し、平成22年には294トンとなりました。

さし網で約70%、沖合底びき網で約20%が漁獲され、そのサイズは全長25~40cmが主体でした。

震災後、操業自粛と国による出荷制限のため水揚げはありませんでしたが、平成28年9月から試験操業が開始されました。漁獲量は平成28年以降13.2~84.8トンで推移しています。令和4年の漁獲量は69.1トン、漁獲金額は31.6百万円でした。

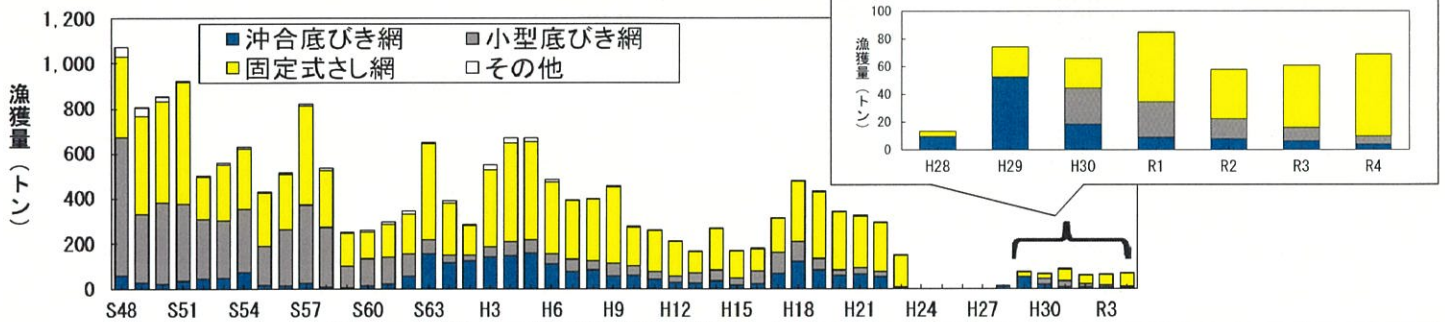


図1 マコガレイの漁業種類別漁獲量

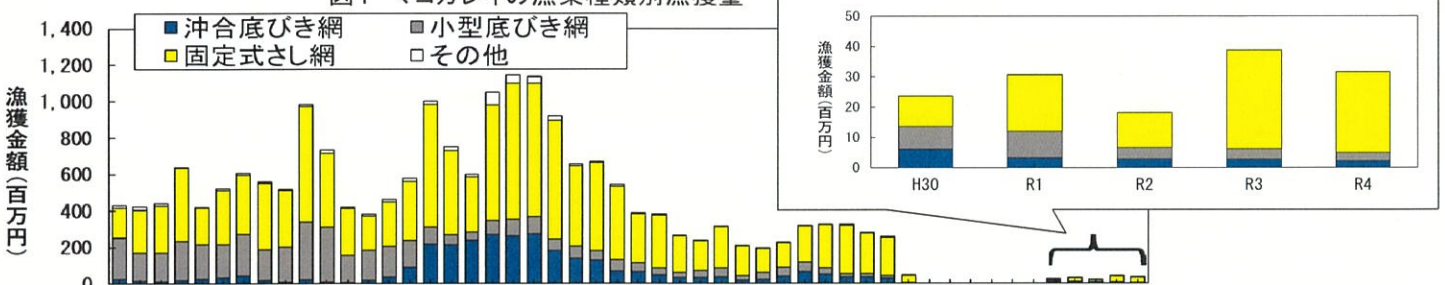


図2 マコガレイの漁業種類別漁獲金額

H28~H29年は相対取引のため漁獲金額データなし

資源の状態

○底びき網のCPUE (1時間あたり漁獲量) は震災後に増加しましたが、平成30年から減少に転じ、令和元年以降は震災前と同じ低水準で推移しています。

○直近5ヶ年の調査船による分布密度調査では目立った加入が見られていません。

資源の水準：低位

資源の動向：横ばい

現在実施されている管理策

相双漁協の新地、相馬原釜、磯部、鹿島、請戸の各地区のさし網漁業者は平成23年から産卵後親魚(ガツパ)の再放流に取り組んでいます。

今後考えられる管理策

春季~夏季は小型魚の加入がみられることから、それらを保護するために漁場や目合いを工夫することが重要です。